

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 松竹系 4月演劇公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
歌舞伎座	『碁盤太平記』	○			
	『六歌仙容彩 僧正遍照・文屋康秀・在原業平・小野小町・喜撰法師・大伴黒主』	○			
	『廓文章 吉田屋』	○		○	○
	『梶原平三誉石切』	○			
	『成駒家歌舞伎賑 木挽町芝居前』	○			
	『心中天網島 河庄』	○			
新橋演舞場	『滝沢歌舞伎10th Anniversary』		○	○	
平成中村座	『双蝶々曲輪日記 角力場』	○			
	『勸進帳』				
	『新皿屋舗月雨暈 魚屋宗五郎』	○		○	○
	『妹背山婦女庭訓 三笠山御殿』	○			
	『高坏』	○			
サンシャイン劇場	『極付幡随長兵衛』	○			
	『広島に原爆を落とす日』	○	○	○	
松竹座 (大阪)	『アート』			○	○
	『スーパー喜劇 かぐや姫』	○		○	○
南座(京都)	『道行初音旅 吉野山』	○		○	○
	『口上 四代目市川九團次襲名披露』			○	○
	『身替座禅』	○			
	南座 春の特別舞台体験				○
	謎解き×歌舞伎 京都謎解心中				○
中日劇場	『操り三番叟』	○			
	『雪之丞変化』	○		○	
	『新・八犬伝』	○			
金丸座	『伊勢音頭恋寝刃』	○			
	『道行初音旅 吉野山』			○	
	『芦屋道満大内鑑 葛の葉』	○			
	『曾我綉侠御所染 御所五郎蔵』	○			

[ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします]

(新着資料案内 続き)

■ 他社演劇公演資料 ■

赤坂ACTシアター	3月	『赤坂。咲かす文楽。』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	4月	劇団民藝『冬の時代』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	3月	人形劇団プーク『てぶくろを買いに』プログラム
		人形劇団プーク『うかうか三十、ちよろちよろ四十ノ約束』プログラム
シアタークリエ	4月	『CLUB SEVEN10』プログラム
青年座劇場	3月	劇団青年座『鑪-たたら』プログラム、台本
帝国劇場	3月	『SHOCK2015』プログラム
東京国際フォーラム	3月	『WIZ』プログラム
日生劇場	3月	『十二夜』プログラム
博多座	4月	市川海老蔵特別公演『源氏物語』プログラム
		五木ひろし『歌・舞・奏スペシャル』プログラム、ポスター
俳優座劇場	3月	劇団銅鑼『父との旅』プログラム、台本
		俳優座劇場プロデュース『十二人の怒れる男たち』プログラム、台本
博品館劇場	4月	『春風外伝』プログラム
		ラフィングライブ『パパ、アイ・ラブ・ユー!』プログラム
パルコ劇場	3月	『趣味の部屋』プログラム
	4月	『正しい教室』プログラム

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『ソロモンの偽証 後篇・裁判』	○	○	○		○
『劇場版 境界の彼方 I'LL BE HERE 未来篇』			○		

■ 映画プログラム ■

『ギリシャに消えた嘘』 『インヒアレント・ヴァイス』  
『龍三と七人の子分たち』 『フォーカス』

■ 演劇雑誌 ■

『あぜくら』平成27年4月号	『テアトロ』2015年5月号
『演劇創造』2015年44号	『伝統文化新聞』2015年
『O I S T A T日本センターNEWS』	『日本照明家協会誌』2015年4月号
2015 March Vol. 12	『日本劇作家協会会報 ト書き』2015年54号
『C o n f e t t i』2015年MAY Vol. 125	『花道』35号
『t h e座』2015年82号	『悲劇喜劇』2015年5月号
『シアターアーツ』2015年春(59号)	『ほうおう』2015年4月号, 5月号
『J P L』2015年Spring No. 57	『邦楽の友』平成27年5月号
『ジョイン』2015 Mar. No. 83	

■ 映画雑誌 ■

『映画ビジネス』平成27年3月下旬号	『SCREEN』2015年6月号
『映画時報』2015年2月号	『ドラマ』2015年5月号
『映画秘宝』2015年6月号	『NFCニューズレター』2015年4月-5月号
『エキブ・ド・シネマ』2015年No. 205	『日経エンタテインメント!』2015年5月号
『キネマ旬報』2015年5月上旬号	『ピクトアップ』2015年6月号
『京橋映画小劇場 KYOBASHI-ZA』No. 30	『FLIX』2015年6月号No. 229
『シネ・フロント』2015年4月号	『立教映像身体学研究』3号

■ 書 籍 ■

『国立文楽劇場の歩み 平成16年度～平成25年度』		日本芸術文化振興会
『建築映画 マテリアル・サスペンス』	鈴木了二(著)	LIXIL出版
『映画公社旧蔵戦時統制下映画資料集 第1-4巻』		ゆまに書房
『溝口健二・全作品解説 第11巻』	佐相勉(著)	近代文芸社
『時代考証学 ことはじめ』	大石学+時代考証学会(編)	東京堂出版
『歌舞伎 型の真髄』	渡辺保(著)、角川学芸出版(編)	KADOKAWA
『四世中村雀右衛門追悼集 花がたみ』	高橋睦郎(編集)	中村雀右衛門後援会
『時代劇文化の発信地・京都』	大石学+時代考証学会(編)	サンライズ出版
『証言 日中映画興亡史』	植草信和+坂口英明+玉腰辰己(編著)	蒼蒼社
『監督川島雄三松竹時代』	カワシマクラブ(編)	ワイズ出版
『ハッピーフライトオフィシャルガイド』	日経エンタテインメント!(編)	日経BP社
『ホビット 思いがけない冒険 映画版』	J. R. R. トールキン(原作)	文芸堂
『時代劇制作現場と時代考証』	時代考証学会+大石学(編)	岩田書院
『地域と語る大河ドラマ・時代劇 歴史都市彦根からの発信』	大石学+時代考証学会(編)	サンライズ出版
『大河ドラマと地域文化 「篤姫」「龍馬伝」と鹿児島』	大石学+時代考証学会(編)	高城書房
『大河ドラマと市民の歴史意識』	大石学+時代考証学会(編)	岩田書院
『大河ドラマをつくるということ 時代考証学の提唱』	大石学+時代考証学会(編)	名著出版
『街角で見つけた新派』	成瀬芳一(文)、岡田明彦(写真)	青蛙房

資料をご寄贈くださった方々(敬称略・順不同/2015年2月～年3月)

※許可を得た方のみ掲載しております

松竹株式会社、松竹ブロードキャスティング株式会社、劇団俳優座、国立劇場、株式会社日本舞踊社、日本映画テレビ技術協会、シナリオ・センター、博多座、劇団四季、公益財団法人 劇場演出空間技術協会、劇団民藝、帝国劇場、明治座、文学座、(株)マルヨンプロダクション「シナリオ」編集部、網代とき子、関西・歌舞伎を愛する会、日本映画テレビプロデューサー協会、演劇出版社、キネマ旬報社、一般社団法人日本民間放送連盟、劇団銅鑼、劇団山の手事情社、劇団青年座、国立歴史民俗博物館、成瀬芳一、パルコ劇場、ロングランプランニング株式会社、株式会社カモミール社テアトロ編集部、公益社団法人日本照明家協会、前進座、伝統文化新聞、シアタークリエ、大場俊雄、独立行政法人日本芸術文化振興会国立文楽劇場、(株)近代映画社、岩波ホール、日本ウニマ(国際人形劇連盟)、秋田雨雀・土方与志記念 青年劇場、銀座百店会、流山児★事務所、邦楽の友社、おもだか会、神奈川県演劇連盟、国文学研究資料館、銀座 博品館劇場、日本劇団協議会、加藤健一事務所、新歌舞伎座、一般社団法人義太夫協会、劇団東演、フィルムセンター、丸善出版株式会社、東宝株式会社、北翔大学北方圏学術情報センター、早稲田大学映画学研究会、児童・青少年演劇ジャーナル「げき」編集委員会、オフィス小津、稀音家義丸、日本近代文学館、阪急文化財団、公益財団法人ユニジャパン、NHK出版、笹川慶子、明治学院大学大学院、映画論叢、若林さだ吉、新国立劇場情報センター、公益社団法人日本バレエ協会 舞踊年鑑編集委員会、大阪ガスビジネスクリエイト(株)OMS 戯曲賞事務局、園田学園女子大学近松研究所、歌舞伎学会、日本映画撮影監督協会、独立行政法人日本芸術文化振興会(国立劇場)、立命館大学アート・リサーチセンター、東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)、集英社、愛知芸術文化センター、立教大学大学院現代心理学研究科、小学館

どうもありがとうございました

## 「新派」展

展示期間:2015年5月7日～6月24日／於閲覧室

新派は、明治 21[1888]年に角藤定憲<sup>すどう</sup>によって旗揚げされた「壮士芝居」がその源流とされており、自由民権運動を目的とした演劇活動を原点としています。同時期に、川上音二郎による「書生芝居」、伊井蓉峰の「男女合同改良演劇」などが起こり、当初は、これらの演劇に対して明確な呼称はなく、「新演劇」や「新劇」など、様々な呼びかたがありました。「新派」と呼ばれるようになったのは明治 30 年代あたりからで、「旧派」＝歌舞伎と区別をするためでした。

政治的意図を持った芝居や、日清戦争などに乗じた戦争芝居、歌舞伎を模した芝居などを経て、明治 30 年前後から、小説を劇化した作品や翻案劇などが上演されるようになり、明治 40 年代にかけての数年間、新派の全盛期とされています。尾崎紅葉の『金色夜叉』、徳富蘆花の『不如帰』、菊池幽芳の『己が罪』、泉鏡花の『金色夜叉』など現在新派の古典とされる数々の名狂言も、この時期に生まれました。また、新派は映画界にも関係しています。明治 32[1899]年に日本で初めての映画が作られ、映画の製作が始まったとき、新派の俳優は現代劇を演じられる俳優として重宝され、吉野二郎のような新派俳優出身の監督も活躍しました。

明治から大正にかけては、伊井蓉峰、喜多村緑郎、河合武雄の「新派三巨頭」を中心に、井上正夫、花柳草太郎、大矢市次郎、柳永二郎、伊志井寛などの俳優たちが芸を競い、それぞれの一座や劇団で公演を行いました。この時期の劇団の一座や劇団の数は10以上に上ります。また、大正 13[1924]年 2 月には、初代水谷八重子が「第二次芸術座」を旗揚げしています。

そして昭和に入ると、新派俳優が集まって新派大合同劇がしばしば催されました。明治期に生まれた「壮士芝居」から 50 年を経た昭和 12[1937]年 2 月には、歌舞伎座で新派五十周年記念興行が華々しく行われ、新派幹部俳優たちが勢ぞろいして、その芸を披露しました。その後、「新生新派」「本流新派」「井上演劇道場」「芸術座」などに分かれてきましたが、戦後の昭和 24[1949]年、再び「劇団新派」の名の下に結集し、今日に至るまで、多くの名舞台を上演し続けています。

## 【展示資料一覧】

## ●スチール

## 「角藤定憲」肖像

新派の源流とされる「壮士芝居」を旗揚げした。「壮士」とは自由民権運動の活動家の呼び名。明治中期、不平士族による自由民権運動が盛んに興り、主義主張を芝居の形で訴えたほうが効果的と考えた角藤定憲は、明治 21[1888]年 12 月 3 日大阪の新町座で「大日本壮士改良演劇会」と称して「壮士芝居」を上演した。

## 「川上音二郎」肖像

明治 24[1891]年 2 月大阪堺の卯の日座にて「書生芝居」と銘打ち『板垣君遭難実記』『経国美談』を上演。幕間で歌った時事風刺の「オッペケペー節」が評判となる。同年 6 月に東京浅草鳥越の中村座に進出し、「日本改良演劇」と銘打ち『板垣君遭難実記』『監獄写真鏡』を上演し、好評を博す。プロデューサーとしての勲に優れ、明治 27[1894]年に日清戦争が勃発すると浅草座で『壯絶快絶日清戦争』を上演。大当たりを取り、明治 28[1895]年 5 月『威海衛陥落』で歌舞伎座に進出。明治 32[1899]年、明治 34[1901]年の二度に渡って欧米巡業を行い、各地で評判を得る。この音二郎の欧米巡業の間に、日本では、伊井蓉峰、喜多村緑郎、高田寛、河合武雄などの俳優による一座が台頭した。明治 44[1911]年 11 月 11 日、大阪帝国座の舞台上で死去。享年 47 歳。

## 「川上貞奴」肖像

川上音二郎の妻で女優として活躍。明治 4[1871]年東京日本橋に生まれる。本名貞。明治 7[1874]年に芳町の芸者屋浜田屋の養女となる。奴を襲名して芸者となり、伊藤博文の寵を受けた。明治 23[1890]年川上音二郎と結婚。音二郎欧米巡業時「貞奴」の名で女優として舞台に立ち、その美貌もあって絶賛を得る。帰国後は女優活動と並行して、明治 41[1908]年木挽町に女優養成所を開設し所長に就任するなど、後進の育成にも力を注いだ。

## ●プログラム

## 明治 27[1894]年 1 月 2 日浅草座『意外』『楠正成』

川上音二郎一座による公演。表紙の「川上演劇」を囲む枠は「川上」の漢字をデザイン化したもの。当時世間を騒がせた偽判事による凶悪事件を劇化した『意外』は、明治 20 年代前半に実用化されたばかりの電話を舞台で使って見せたり、電気で月明りを表現するなどの新しい演出が大当たりし、川上一座の名は高まり、世間に新派劇が認められるきっかけともなった。

## 明治 27[1894]年 2 月 22 日浅草座『又意外』

前月の『意外』の続編。同年 7 月には続々編の『又々意外』も作られた。表紙の絵は、俳優水野好美によるもの。水野好美は弧芳と号した洋画家で、舞台背景を志した後、俳優に転身したが、水野好美の手による番付も多く残っている。



[左]明治 27 年 1 月 2 日浅草座プログラム  
[右]明治 27 年 2 月 22 日浅草座プログラム

## 明治 36[1903]年 2 月 11 日明治座[東京]『オセロ』

二度目の欧米巡業より帰国した川上音二郎は、「正劇」と称して、シェークスピアの『オセロ』を翻案した科白劇を上演。既に欧米で女優としてデビューしていた貞奴が、この芝居で日本の舞台に出演した。オセロは「臺灣總督室鷲郎」、デズデモーナは「<sup>とちね</sup>輛音」、イアゴは「伊屋剛藏」と日本名になっており、それぞれ川上音二郎、貞奴、高田實が演じた。表紙の枠は「川上」の漢字をデザイン化したものだが、明治 27[1904]年浅草座とは異なったデザインとなっている。



昭和 9 年 12 月 1 日  
明治座プログラム

## 明治 37[1904]年 9 月 22 日日本郷座『フランチェスカの悲戀』『高野聖』

大阪朝日座を去り、東京へ進出した高田實、河合武雄などによる一座。この頃から明治 42 年頃まで、本郷座を含め、新派の全盛期を迎えた。また、明治 30 年代から歌舞伎は「旧派」、新演劇は「新派」と通称で呼ばれるようになっており、この表紙にも「新派」の表記が見られる。『フランチェスカの悲戀』は、ダンテの『神曲』を松居松葉が翻案した芝居。

## 昭和 9[1934]年 12 月 1 日明治座 全新派總動員師走興行『與太者サーカス』『春色懺悔』『金色夜叉』

喜多村緑郎、伊志井寛、小堀誠、初代英太郎、大矢市次郎、河合武雄、井上正夫、藤村秀夫、柳永二郎、花柳章太郎などが出演。昭和初期、新派俳優たちが結集し新派大合同劇が催されてから、昭和 10 年代まで合同劇がしばしば上演された。



『己が罪』台本

### ●台本

#### 『己が罪』菊池幽芳原作 [上演年月日不明]

川村花菱寄贈台本。劇作家・演出家の川村花菱は、昭和初期から新派の脚色・演出に活躍した。松竹大谷図書館では川村花菱寄贈の自筆を含む台本を多数所蔵しており、貴重な資料となっている。

### ●スチール

『婦系図』泉鏡花作 大正 3[1914]年 9 月明治座  
早瀬主税(伊井蓉峰)、おつた(河合武雄)

『日本橋』泉鏡花作 大正 4[1915]年 3 月本郷座

#### ◆初演

お孝(喜多村緑郎)、葛木晋三(伊井蓉峰)

『不如帰 浪子』徳富蘆花原作/川村花菱脚色・舞台監督  
昭和 6[1931]年 9 月明治座  
川島武男(花柳章太郎)、浪子(初代水谷八重子)

『小梅と一重』伊原青々園原作/眞山青果脚色  
昭和 7[1932]年 9 月明治座  
宇治一重(喜多村緑郎)、假名屋小梅(河合武雄)

『廿六号隧道』<sup>トンネル</sup>巖谷三一作 昭和 11[1936]年 9 月明治座  
おうた(初代英太郎)

『新琵琶歌』大倉桃郎原作/川村花菱脚色・演出  
昭和 13[1938]年 4 月東京劇場  
武田貞次(梅島昇)、里野(花柳章太郎)

『細君三日月天下』中野實作 昭和 13[1938]年 5 月国際劇場  
小阪の妻百合子(市川紅梅=三代目市川翠扇)、小阪亘(伊志井寛)

『湯島詣』泉鏡花原作/巖谷三一脚色/久保田万太郎監督  
昭和 13[1938]年 7 月歌舞伎座  
上月梓(柳永二郎)、蝶吉(花柳章太郎)

『二筋道』瀬戸英一作 昭和 14[1939]年 9 月国際劇場  
阿久津謙三(伊井友三郎)、村岡喜代子(喜多村緑郎)

『日本橋抄』泉鏡花作/久保田万太郎演出  
昭和 16[1941]年 8 月東京劇場  
葛木晋三(梅島昇)、五十嵐傳吾(小堀誠)

『大尉の娘』巖谷眞一補筆・演出  
昭和 23[1948]年 4 月東京劇場  
森田慎蔵(井上正夫)

『十三夜』樋口一葉原作/久保田万太郎演出  
昭和 26[1951]年 3 月新橋演舞場  
齋藤主税(大矢市次郎)、娘せき(花柳章太郎)

『残菊物語』村松梢風作/巖谷眞一脚色  
昭和 26[1951]年 4 月明治座  
お徳(初代水谷八重子)

『<sup>こつたい</sup>太夫さん』北条秀司作・演出 昭和 30[1955]年 11 月明治座  
善助(大矢市次郎)、おえい(花柳章太郎)

### ●図書

『女難花火』花柳章太郎著 昭和 30[1955]年雲井書店発行  
産業経済新聞夕刊連載の小説を単行本化。各章はじめのカットは著者花柳章太郎自身によるもの。

『絵番附・新派劇談』柳永二郎著 昭和 41[1966]年青蛙房発行

新派俳優柳永二郎が著した新派の歴史の本。新派資料を戦前から収集し、著述にも優れていた。この本に掲載されている、柳永二郎が収集した番付や筋書は、松竹大谷図書館に寄贈され、当館の貴重な所蔵資料となっている。

『新派 百年への前進』『新派年表』劇団新派編 昭和 53[1978]年大手町出版発行

「演劇界」で昭和 29[1954]年に連載された「喜多村緑郎間書」(大江良太郎著)を収録し、歴代の新派俳優についても記された本。装幀に使用されている図柄は、時事風刺の「オッペケペー節」をうたう川上音二郎の錦絵。

## ■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

**公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。**

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2015（平成27）年4月にご支援いただきました

#### 法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社歌舞伎座

歌舞伎座サービス株式会社

歌舞伎座舞台株式会社

松竹株式会社

松竹衣裳株式会社

株式会社松竹映像センター

松竹音楽出版株式会社

松竹芸能株式会社

株式会社松竹サービスネットワーク

松竹ブロードキャスティング株式会社

株式会社松竹マルチプレックスシアターズ

どうもありがとうございます

### ■ 編集後記

▼5月4日より、歌舞伎座ギャラリーにて「体験空間 歌舞伎にタッチ！ しる・みる・ふれる・やってみる」展が始まっています。体験空間とあるように、歌舞伎を直に体験できる展示となっております。舞台の効果音を出す道具で実際に音を出してみたり、『実盛物語』の馬に乗ってみたり。舟や駕籠に乗ることもできます。会場の壁面は、歌舞伎の大道具さんが、今回の展示のために描いた本物の背景画ですので、舞台上で旅しているような気分になること請け合いです。第四期歌舞伎座の檜板が使用されている木挽町ホールの舞台には、『菅原伝授手習鑑』の寺子屋の場面が再現されており、実際に上がって手習いの真似をすることが出来ます。また、今回の展示企画のために、花道が新調されました。花道の七三に立ち、歌舞伎俳優の気分になって、見得を切ってみることも出来ます。

記念撮影もOKとのことですので、ご観劇の前後や、外出の折など、立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

「体験空間 歌舞伎にタッチ！ しる・みる・ふれる・やってみる」

■ 日程…2015年5月4日（月・祝）より  
※8月31日（月）から展示品一部入替のため

の休館日あり

■ 開館時間…10:00～17:30 ※最終入館は

17:00まで

■ 会場…歌舞伎座ギャラリー

（東京都中央区銀座4丁目12番15号 歌舞

伎座タワー5階）

<http://www.shochiku.co.jp/play/kabukiza/gallery/>

### ● 利用案内

#### 開館時間

平日午前10時～午後5時

#### 休館日

土曜日、日曜日、祝祭日、毎月

最終木曜日、5月1日、11月

22日、年末年始、春期 夏期

#### 特別整理期間

※その他、臨時休館のある場合

は一ヶ月前から館内および

Webサイトに掲示します。

#### 閲覧 館内閲覧のみ

#### 入館料 無料

### ● 交通案内

東京メトロ日比谷線、都営

地下鉄浅草線 東銀座駅5番

出口より徒歩3分

東京メトロ有楽町線 新富町

駅1番出口より徒歩8分

